

♪～大豆多収の鍵はマメな雑草・病虫害防除管理です～♪

# 両沼豆づくり情報 令和3年度第1号(通算第5号)

(令和3年6月7日)

発行：会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2113）

〃 金山普及所（電話0241-54-2801）

J A会津よつば 各営農経済センター



## 1 多収高品質大豆生産のための基本技術

- (1) 堆肥や鶏ふんなどの有機物の施用や緑肥すき込みによる地力の向上
- (2) 水田転換畑の弾丸暗きょ実施や明きょの設置による排水対策
- (3) 適量の施肥および石灰による土壌調整
- (4) 碎土率（2 cm以下の土塊の割合）80%の確保による出芽苗立向上と除草剤適切使用による雑草防止
- (5) 種子塗沫剤による初期害虫（フタスジヒメハムシ）と立枯病の被害防止
- (6) 中耕培土の実施
- (7) 病虫害適期防除による子実食害害虫と紫斑病の抑制

## 2 当面の技術対策

- (1) 種子の準備
  - ア 購入した種子は、播種直前まで冷暗所に保管し、過乾燥を防止しましょう。
  - イ 6月上旬までの標準的な播種量は、10 a 当たりで大粒が5～8 kg、中粒が4～6 kg、小粒が1.5～2.5 kg（いずれも枕地を播種する場合）となります。
  - ウ 種子塗沫：播種前にクルーザーMAXXを乾燥種子1 kg当たり原液で8 ml塗沫処理することで、ハト、フタスジヒメハムシ、タネバエ、アブラムシ、紫斑病、立枯病等の被害を抑制することができます。

表1 施肥（基肥+追肥体系）

区分	基肥 (kg/10a)			追肥 (kg/10a)				
	窒素	リン酸	カリ	窒素	体系1		体系2	
					肥料名	施用時期	肥料名	施用時期
標播	2	8	8	6	LP70	5～7葉期	硫安・	開花期
晩播	3	12	12	6	LP40		尿素	

### (2) ほ場の準備

- ア 排水対策：暗きょ排水が施工されているほ場では、暗きょ管が効いているか確認を行い、目詰まり等があれば清掃等を行いましょ。暗きょの効果を高めるため、サブソイラ等で弾丸暗きょを行いましょ。弾丸暗きょを行えないところでは、溝掘り機等で額縁明きょを行いましょ。
- イ 土づくり：土づくりのために1 t /10 a 前後の堆肥施用または、鶏ふん30kg/10 a の施用による地力の向上を図りましょ。また、pHの調整とカルシウムの補強のために石灰を80～100kg/10 a 散布しましょ。
- ウ 基肥：肥料の10 a 当たりの標準施用量は、チッソ2～3 kg、リン酸8～12 kg、カリ8～12 kgです（表1）。豆プロ一発(大豆専用一発肥料)を基肥に使用する場合

は、30kg/10aを現物量とします。

- エ 耕耘整地：碎土の目標は碎土率（2cm以下の土塊の割合）80%以上で、その良否が出芽率や除草剤の効果発現に大きく左右します。碎土後は、播種まで降雨があるとほ場が乾きにくくなるため、耕耘・整地作業はできるだけ播種当日に行いましょう。

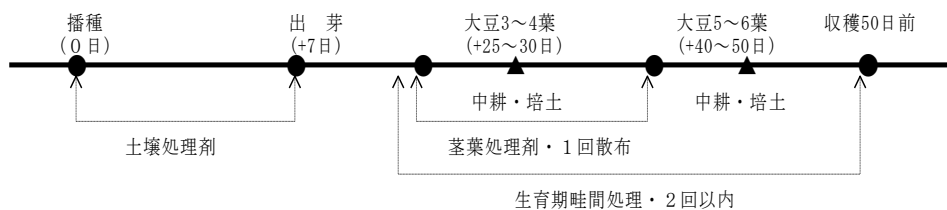
(3) 播種及び除草剤散布

- ア 播種：播種機使用前にロールやブラシ、覆土板などの点検を行い、また消耗品を事前に確認しましょう。播種時の覆土深は3cm程度とし、5cm以上の深播きまたは地表面の露出がないかなどを播種直後に確認しましょう。施肥同時播種では、肥料と種子の位置が5cm以上の間隔を開けた側条施肥を行いましょう。降雨時の播種作業では、出芽不良となるため、天候の回復を待って播種を行いましょう。
- イ 栽植密度：6月上旬までは畦間60～75cm、株間15～20cmの播種作業を行いましょう。6月中旬以降の播種は、畦間や株間を狭めるなどして十分な苗立ちを確保しましょう（表2）。
- ウ 除草剤：土壌処理剤は発芽前まで可能ですが、雑草の発生後は効果が劣るため播種後なるべく早く散布します（図1）。帰化アサガオの多いほ場では、フルミオWGやプロメトリンを含む剤、アレチウリの多いほ場ではダイロンゾルやフルミオWGの土壌処理が有効です。

表2 大豆の栽植密度

播種期	畝間 (cm)	株間 (cm)	栽植本数* (本/10a)	播種量 (kg/10a)		
				大粒	中粒	小粒
5月下旬 ～ 6月上旬	60～75	15～20	13,000 ～ 22,000	5.0～8.0	4.0～6.0	1.5～2.5
6月中旬 ～ 6月下旬	60～70	5～10	29,000 ～ 67,000	10～15	8.0～15	3.0～6.0

\* 2本/株、\*\* 大粒の晩播は株間10cm



注意 土壌処理剤は出芽前に処理を終わること。茎葉処理剤は使用時期に注意するとともに周囲のイネ科作物にかからないようにすること。

図1 大豆の除草体系

ノーミス、ノー事故、農作業！ 水分・塩分補給で熱中症を防止しましょう！  
 ☆農薬は使用基準・使用方法に従い正しく使用しましょう。  
 ☆自然災害対応および所得安定のために、農業共済・収入保険に加入しましょう